

2025 年度 習志野市立鷺沼小学校 学校経営方針

学 校 教 育 目 標

「豊かな心をもち、未来に輝く児童の育成」

学 校 の 特 色 ・ 実 態

- ・穏やかで明るい児童が多い。
- ・学習や活動に真面目に取り組み、能力も比較的高い児童が多い。
- ・通常学級においても、特別に支援を要する児童が増えている。

目 指 す 姿

【目指す学校像】

「誰ひとり取り残さない鷺沼小」

(1) 鷺沼小は児童一人一人を大切にします

- ・児童一人一人の自尊感情や自己有用感を大切に育てます。
- ・規律がある温かい学級集団づくりにより、児童一人一人にとって居心地がよい、いじめのない学級集団をつくります。
- ・全職員が「鷺沼小の全児童の担任」という意識のもと、相互に連携し合いながら、チームで育てていきます。

(2) 鷺沼小は教師の指導力向上に努めます

- ・教師が指導力を高めることで、児童一人一人の学力向上を目指すと共に、よりよい学級集団を作ります。
- ・生活科・理科・生活単元学習の研究と初若年層教職員・講師を対象とする「若鷺研」を充実させ、指導力・授業力・学級経営能力を高めます。
- ・ベテラン層教員の経験値や指導スキルを初若年層に伝える場や機会を大切にすると共に、初若年層がベテラン層に相談しやすい関係を作ります。

(3) 鷺沼小は地域や保護者との連携を大切にします

- ・保護者・地域への情報発信を積極的に行うと共に、学校への意見にも積極的に耳を傾けることで、本校の教育活動に対する理解と協力を一層得られるように努めます。
- ・地域人材を積極的・有効的に活用し、学校の教育力の強化に努めます。

【目指す児童像】

- やさしい子……………相手の気持ちを考えて協力し合う子
- ねばり強い子……………目標に向かい、最後までやり遂げる子
- 前に踏み出す子……………よく考え、自分で決め、実行する子

鷺沼小の4つの あ

あんぜん

あいさつ

ありがとう

あきらめない

【目指す教師像】

- 互いを思いやり尊重し合い、児童一人一人が安心できる居場所づくりを行う
- 児童一人一人の「わかった」「なるほど」を引き出す先生
- チームで考え、力を合わせて学校と児童たちのために行動する先生
- 自らを厳しく律し、常に向上心をもつ先生

学 校 経 営 の 重 点 目 標

(1) 安全・安心な学校づくり

- ① 安全指導・安全教育の充実と安全な環境整備
- ② いじめのない学校づくり
- ③ 体力向上と危機管理の充実

(2) 研究・研修の充実による磨き合う教職員集団

- ① ICT 教育の充実と学校デジタル化の推進
- ② 校内研究の充実
- ③ 互いに支え合う職員集団

(3) 誰一人取り残さない学校づくり

- ① 特別支援校内支援体制の一層の充実
- ② 学力遅滞児や配慮を要する児童への対応
- ③ 不登校児童、教室に入れない児童への対応

重点目標を達成するための具体的方策

(1)安全指導・安全教育の充実と安全な環境整備

① 安全教育と安全点検の充実

- ・交通安全・生活安全・災害安全指導を充実させ、事故の未然防止
- ・きめ細かな安全点検と計画的な修繕
- ・実践的な訓練で危機対応力を強化
- ・危機等発生時対応マニュアルの見直しと更新
- ・情報モラル教育、感染症予防の徹底
- ・学校生活管理表に伴う食物アレルギーに対する対応

② いじめのない学校づくり

- ・学級経営を充実させ、児童同士・教師と児童の望ましい人間関係をつくる
- ・基本的生活習慣の確立、担任がいじめを許さない雰囲気醸成
- ・個々の児童に対する細やかな指導・助言による児童の居場所をつくる
—行動観察や教育相談の充実
- ・豊かな体験活動や各行事を通して達成感や充実感、成功体験を向上させる
- ・道徳の時間を充実させ、思いやりの気持ちや人権意識を向上させる。
- ・わかる授業の展開を通して児童一人一人に自己肯定感を感じさせる場面や自己決定の場面を与える
- ・児童会を中心としたいのちを大切にするキャンペーン、いじめ撲滅運動の充実
- ・傍観者教育の充実

③ 体力向上を目指し、ケガをしにくい体づくり

- ・校内事故防止を目指した業間休み・昼休みの工夫
- ・ケガをしにくい体づくり(逆さ感覚・回転感覚・巧緻性の重視)
- ・年間を通した継続した体力向上への取り組み(縄跳び・鉄棒・マラソン)

(2) 研究・研修の充実による磨き合う教職員集団

① ICT 教育の充実とデジタル化の推進

- ・一人1台端末を活用した深い学びと個別最適化された学びの推進
- ・学校と家庭、双方向の連絡ツールとしての活用、ペーパーレスや押印省略
- ・学校ホームページの迅速な更新と連絡メールの活用

② 校内研究の充実

- ・タブレットの効果的な活用、デジタル教科書や AIドリルの積極的な活用
- ・ICT の有効的な活用のためのミニ研修会の実施
- ・一人一授業研究の実施と理科学研究三校による切磋琢磨
- ・初若年層の主体的な研修の充実(若鷺研の充実)

③ 互いに支え合う職員集団

- ・チームで、ゴールをにらみながら学校・学年・学級経営
- ・指導目標を設定しチャレンジ ― 児童の発達段階・特性・実態を見据えて
- ・学年・学級経営を充実 ― 学年チームワークと学年間連携
- ・子どものマイナス行動を見て即座に指導、プラス行動を見て即座に賞賛

(3) 誰一人取り残さない学校づくり

① 特別支援校内支援体制の一層の充実

- ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の充実と共有
- ・特別支援教育に関する校内研修の充実
- ・校内支援委員会の充実とケース会議の実施

② 学力遅滞児や配慮を要する児童への対応

- ・ユニバーサル・デザインの機能を生かした教室環境と授業づくり
- ・担任だけでなく、管理職を含めた全教職員で個々へのきめ細やかな対応

③ 不登校児童、教室に入れない児童への対応

- ・学年チーム・外部専門家による見立てと対応の協議
- ・教育相談に関する校内研修の充実と教育相談週間の設定

(4) 社会の変化に応じた教育活動

① 外国語活動の充実

- ・校内指導体制の充実 ― 学年組織を中心に新指導要領移行への仕上げ
- ・年間指導計画の策定と見直し ― 教師の Challenge～On the Job Training

② キャリア教育の充実

- ・子どもを社会につなげる、発達段階に応じた系統的な指導計画とキャリアパスポートの活用
- ・地域と連携、地域の教育力を活用し、すべての学校教育活動を通じて

(5) 地域と共にある学校づくり

① 開かれた学校づくり

- ・地域行事等に積極的に参加 ⇒ 地域との連携深化
- ・学校教育活動を積極的に公開

② 学校の見える化の促進

- ・よくわかる鷺沼小ガイド作成
- ・安全マップの作成・配布
- ・学校に置いていって良い教材・教具一覧表の提示